

文学館だより



令和 7 年 8 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高 第112号

= 若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year =

短歌実作基礎講座開講

7月15日(火)

これから短歌を作ってみようという初心者を対象に今年度開講しました。長年思い描いていた講座開設が実現できうれしく思います。学ぶ楽しさ、作る楽しさを味わう講座にしていきたいと思っています。

1 ねらい

みそひともし

- (1) 5・7・5・7・7の三十一文字のリズムを知り、短歌に触れる機会をもつ。
- (2) 短歌実作および鑑賞を通して、短歌の基礎を学ぶ。
- (3) 歌人若山牧水が東郷町坪谷に生まれたことを知り、「短歌のまち日向」づくりを盛り上げる。
- (4) 宮崎日日新聞「宮日文芸短歌部門」等への投稿気運を高める。

2 主催 日向若山牧水顕彰会

3 アドバイザー

日高尚子氏	日向市在住	「心の花」所属
鈴木睦代氏(補佐)	日向市在住	

講座生 16 名の申し込みで第 1 回がスタートしました。「作りたいけど作り方がわからない」「投稿する勇気がなく諦めていた」「介護が終わりボケていくことがこわい」「“アレ”“アレ”で済ませず丁寧にことばを探していきたい」「何でも挑戦みんなで参加」などなど、講座開講を楽しみにしていた声がたくさん聞けました。アドバイザーの日高尚子さんからは「62 歳から短歌を始めた。ペンと紙があれば誰でもできる(伊藤一彦)」の言葉をいただきました。よし!私もこれから!! と肩を叩いてもらったような勇気をもらいました。

それでは、初投稿歌を数首・・・

古古古米長蛇の列に並び待つ明日も並ぶいつまで並ぶ
誘われて初心者クラスワクワクと短歌まなびて人生仕上げ
喜寿祝い同級生と再会すおしゃべりはずみ時間が足らず
勇気出し短歌講座に申し込み待ち受け人に歓迎されし
生きていた ライン開通五年越し倅二十九男ってこんなもののなの



次回は 8 月 19 日(火)。どんな歌が揃うか楽しみです。

第15回牧水・短歌甲子園の夏がやってきた!

25 校 50 チームから選ばれた 12 校 12 チームの高校生たちが日向市に集結。三十一文字に懸ける熱い夏が今年もやってきました。初出場校は 5 校。高校生から学ぶことの多いこの 2 日間、今年もたくさんの短歌に触れたいと思います。お近くの方、会場で観戦されませんか。入場無料です。

8 月 9 日(土) 9:20 ~	一次リーグ	日向市中央公民館
8 月 10 日(日) 9:00 ~	準決勝・決勝	日向市中央公民館

本選出場校

埼玉県星野高等学校(4)	神奈川県立光陵高等学校(4)
東京都 NHK 学園高等学校(初出場)	愛知県名古屋高等学校(初出場)
岐阜県立飛騨神岡高等学校(2)	岡山県立岡山朝日高等学校(初出場)
福岡県立八女高等学校(5)	
地元宮崎からは 宮崎県立宮崎西高等学校(13)	宮崎県立宮崎商業高等学校(12)
宮崎県立宮崎北高等学校(初出場)	宮崎県尚学館高等部(12)
宮崎県立延岡工業高等学校(初出場)	※()は本選出場回数です。



表彰式終了後、今年は「牧水・短歌甲子園 OBOG 会みなど」×「アイドル歌会」が開催されます。初の試みで今年限りの開催です。どんな展開になるのでしょうか。

牧水生誕 140 年記念特別企画「牧水・短歌甲子園 OBOG 会みなど」×「アイドル歌会」

日 時	8 月 10 日 (日) 13:00 ~	※牧水・短歌甲子園終了後
会 場	日向市中央公民館	※牧水・短歌甲子園同様入場無料
第一部	エキシビジョンマッチ	みなと VS アイドル歌会 題詠「水」
第二部	歌会	選者と出演者が選ぶ、推しの一首 題詠「生」

第7回「みなと展」開催しています

牧水・短歌甲子園を巣立っていった卒業生たち。卒業してもなお牧水・短歌甲子園にかかわり続けている OBOG 会「みなと」。今年も牧水・短歌甲子園当日は、フィールドアナウンサーをはじめ運営スタッフとして陰となりひなたとなって大会を盛り上げてくれています。今も歌を詠み続けている彼らが今年も文学館に歌を寄せてくれました。この「みなと展」は今年で7回目を迎えました。

題詠「望」 ・ 自由詠

氏名右の回数は牧水・短歌甲子園出場回を表します

望遠鏡逆さに覗けばわれの目の夜闇に月を探せり君は	海老原愛 (第2、3回)
恋うならば海へ向かって ため息のバタフライエフェクトを信じる	海老原愛 (第2、3回)
ジャカラダの木下を遠ざかる夜の傘をあるいは羨望として	狩峰隆希 (第5、6回)
ひとつ光 (かけ) させばあまたの影が生るいつからここは野外球場	狩峰隆希 (第5、6回)
狙ったあの子に振られたと切り出す同期の顔は今季絶望	宮本卓明 (第5回)
潜望鏡で見る荒海のひとしづき またミサイルがニュースに落ちる	久永草太 (第6回)
コカ・コーラ開けてふしゅっというたびにに見えないけれど逃げていくもの	久永草太 (第6回)
世に潜み太公望の針垂らす待てど待てども湖畔にひとり	今東壮之晟 (第7回)
放課後が良き日ハレの日花は飛びドレスの白に滲んで溶ける	今東壮之晟 (第7回)
曖昧が恋しい五月 望月の輪郭とてもはっきりしてる	後藤匠人 (第9、10、11回)
バーベキューの煙の向こうはぼやぼやと博士課程に行こうかどうか	後藤匠人 (第9、10、11回)
目を閉じて放課後をただ待っていた望まなくても夜はくるのに	三井幸乃 (第11、12回)
君は眼を望遠レンズのようにして私に見えない船を指差す	古谷明希歩 (第12、13回)
鳳仙花弾ける前に摘みとって綺麗なわたしのふりをしている	古谷明希歩 (第12、13回)

「みなと展」移動展開催

8 月 9 日 (土) ~ 8 月 10 日 (日)	日向市中央公民館
8 月 11 日 (月) ~ 8 月 31 日 (日)	若山牧水記念文学館
9 月 1 日 (月) ~ 9 月 12 日 (金)	日向市役所市民ホール



牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

おもひやるかのうす青き峡のおくにわれのうまれし朝のさびしさ
おもひやる かのうすあおき かいのおくに われのうまれし あさのさびしさ

牧水は明治 18 年 8 月 24 日早朝、朝日の射す縁側で生まれた。今年が生誕 140 年。
「明治十八年八月廿四日、その日は陰暦では恰度お盆の十六日に当つてみた相だ。その朝とりわけて気分よかった母を二人の姉は東の縁側へ連れ出して座らせてみた。」「何の用意もなしに急に産気づいて私は生れたのだ相である。」「此処でお前はことんと音をさせて生れたのだよ、と其後もう余程生長してから度々姉どもは私をその縁側へ連れて来てはからかった。」「おもひでの記」より 牧水は二人の姉たちによって繁 (しげる) と命名された。

お知らせ

9月17日(水)は牧水の命日。坪谷では第75回牧水祭を開催します。前日9月16日(火)は、「若山牧水生誕140年記念第75回牧水祭特別企画」を開催します。

- 特別企画① 「牧水ゆかりの地めぐり」 8:30~14:00 【参加料】無料(※昼食代1,000円)
- 特別企画② 「記念シンポジウム」 14:30~17:00 【参加料】無料 【会場】日向市中央公民館
- 特別企画③ 「交流会(あくがれの会)」 18:00~20:00 【参加料】6,000円 【会場】ホテルベルフォート

※事前申し込みが必要です。詳細は若山牧水ホームページをご覧ください。